

2011/11/9 作業の内容

内容

配布した地図の横に示した統計表を基に、常住する市町村外への通勤通学者の割合の階級区分図を作成する。階級値と塗る色は以下の通り：

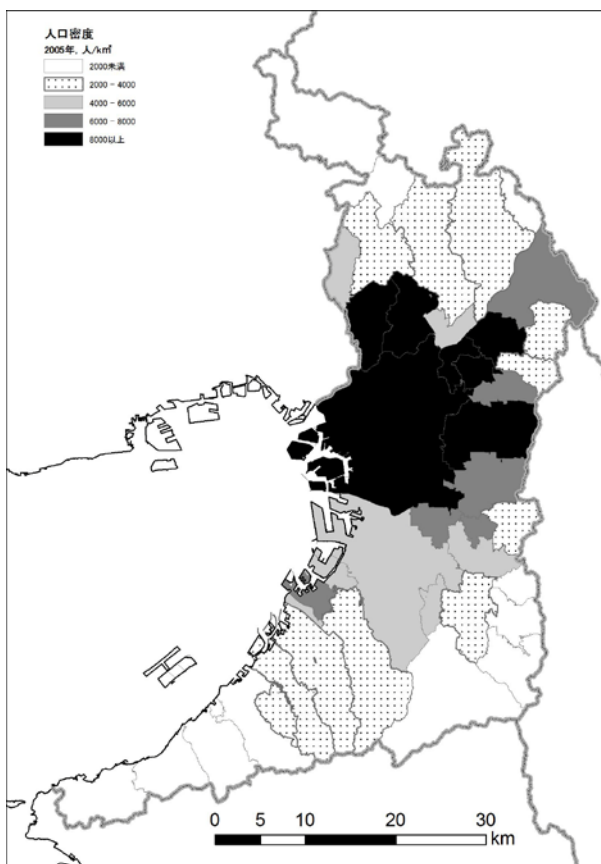
0～40%が青，40～50%が水色，50～60%が黄色，60～70%がだいたい色，70～100%が赤以上の階級値とその色は，図の凡例欄にも記入すること。

階級区分図が作成できたら，以下の事柄を，地名を使わずに地図上の位置関係で記す

- ①最も高い値を示すのはどこか？
- ②最も低い値を示すのはどこか？
- ③中間の値を示すのはどこか？
- ④①～③はどのように配列しているか？
- ⑤①～④をまとめて文章にするとどうなるか？

以上の書き方は，下の大阪府の市町村別人口密度の事例を参考にして行う。

作図とその読み取りは，まず大阪府南東部の市町村について行い，その後大阪府全体について行う。



大阪府の市町村別人口密度

- ①大阪府の中央部
- ②大阪府の周縁部
- ③大阪府の中央部と周縁部の間
- ④大阪府の中央部から周縁部に向かって徐々に値が小さくなっていくので，ほぼ同心円状の構造になっている。ただし，大阪府の中央部から南西部に向かう地域には，例外的に高い値を示す市町村もある。
- ⑤大阪府の人口密度は，大阪府の中央部で最も高く，中央部から離れるにつれて低くなり，周縁部で最も低くなる。このため，ほぼ同心円状の構造になっているが，大阪府の中央部から南西部に向かう地域には，例外的に高い値を示す市町村もある。